2021 年度　クリニクラウンによる子どもの成長サポート事業　報告書

認定 NPO 法人　日本クリニクラウン協会

〒530-0053 大阪市北区末広町 3-11　天しもビル 3B
TEL：06-4792-8716/FAX：06-4792-8746
E-mail:info@cliniclowns.jp
http://www.cliniclowns.jp

2021 年度　クリニクラウンによる子どもの成長サポート事業　報告書

「TOOTHFAIRY」プロジェクトからご支援いただいた支援金は、2021 年度のクリニクラウン派遣事業・Web 事業の一部に活用させていただきました。ご支援いただき本当にありがとうございます。
みなさまのご協力のおかげで、全国 19 病院施設へ 62 回クリニクラウンが訪問することができ、約 790 人のこどもたちに「こども時間」を届けることができました。本当にありがとうございます。

	病院施設数	訪問回数	こども数
リアル訪問	3 病院施設	4 回	108 人
Web 訪問	16 病院施設	56 回	400 人
病院限定　動画 DVD 配信	1 病院	1 回	80 人
YouTube ライブ配信	公開・アーカイブ閲覧	1 回	202 人
合計		62 回	790 人

【訪問病院】

	病院名称	実施回数					こども数合計
1	札幌北楡病院	4 回	9 月 29 日	10 月 20 日	11 月 17 日	12 月 15 日	24 人
2	東京医科歯科大学医学部附属病院	3 回	10 月 21 日※リアル訪問	11 月 18 日※リアル訪問	12 月 16 日※リアル訪問	中止	33 人
3	大阪医科薬科大学病院 ※名称変更旧大阪医科大学病院	4 回	10 月 13 日	11 月 10 日	12 月 8 日	1 月 12 日	38 人
4	兵庫県立尼崎総合医療センター	4 回	9 月 27 日	10 月 25 日	11 月 22 日	1 月 24 日	22 人
5	TURUMI こどもホスピス	2 回	11 月 25 日	12 月 2 日※リアル訪問			9 人
6	チャイルド・ケモ・ハウス	1 回	2 月 3 日				1 人
7	千葉県こども病院	6 回	10 月 7 日	10 月 21 日	11 月 4 日	11 月 18 日	42 人
			12 月 2 日	12 月 16 日			
8	静岡県立こども病院	6 回	10 月 6 日	10 月 13 日	11 月 10 日	11 月 19 日	34 人
			12 月 1 日	12 月 8 日			
9	日本大学医学部附属板橋病院	6 回	9 月 27 日	10 月 11 日	10 月 18 日	11 月 1 日	59 人
			11 月 15 日	12 月 6 日			
10	群馬県立小児医療センター	4 回	9 月 22 日	10 月 27 日	11 月 24 日※リアル訪問	12 月 22 日※リアル訪問	98 人
11	大阪市立総合医療センター	4 回	9 月 21 日	10 月 19 日	11 月 16 日	12 月 21 日	17 人
12	児童発達支援・放課後ディサービス MayMay	4 回	9 月 27 日	11 月 29 日	12 月 25 日	1 月 31 日	24 人

13	放課後児童デイサービスプリモ	4 回	10 月 21 日	11 月 24 日	11 月 29 日	1 月 25 日	28 人
14	一般社団法人 Burano	2 回	12 月 25 日	2 月 8 日			11 人
15	難病のこども支援全国ネットワーク	1 回	1 月 15 日				20 人
16	社会福祉法人 地域で一緒に暮らそう会 地域サポートセンター えがお	1 回	12 月 25 日				12 人
17	大阪母子医療センター	1 回	12 月 24 日※動画配信				80 人
18	福岡市立医療センター	4 回	11 月 11 日	1 月 25 日	2 月 22 日	3 月 22 日	36 人
19	訪問先病院への YouTube ライブ配信	1 回	2 月 14 日 ※動画配信				202 人
		62 回					790 人

◆活動の様子（リアル病院訪問）

コロナ禍、クリニクラウンは、新型コロナウイルス感染症対策のマニュアルに基づき、PCR 検査を行い、新しい行動変容での訪問となりました。実施の訪問では、クリニクラウンは、マスク着用・時にはフェイスシールドを着用。「こどもたちと 1 メートル以上離れる。」「接触や道具の受け渡しはしない。」「医療スタッフと接触しない。」「病棟内、病室内の環境にできるだけ触らない」など、病棟スタッフと、こどもたちと安心安全に関わるための細かい打合せを毎回し、訪問を実施しています。

クリニクラウンの病棟訪問は、病室を個別に訪問し、今その時、子どもの気持ちや状況をみて関わり方を変えていきます。1 回の訪問時間は2時間。クリニクラウンは子どもだけなく、保護者や医療スタッフとも積極的にコミュニケーションを図ります。これは、病棟の療養環境をつくっているのは、そこにいる人であり、そこにいる人たちのコミュニケーションが豊かになること。そして、子ども自身が人と関わることを楽しいと感じてもらうことが、入院中の子どもの QOL 向上につながると考えているからです。

①カンファレンス

訪問前には必ずその日の病棟の様子を病棟スタッフに確認する時間をとります。安心して子どもたちと関われるように、訪問の順番など衛生面の確認を毎回おこないます。また、子どもの症状だけではなく、遊びを通して子どもの成長や発達をサポートする上で必要なことを確認します。

②病棟訪問の様子

（病棟では、カメラマンの同行不可のため撮影写真はありません。）

③後カンファレンス

訪問後に、病棟スタッフと訪問の感想を共有しました。コロナ禍の今の状況。子どもたちの様子。訪問中に感じた家族や子ども達の様子や変化を伝え、子どもたちの成長や発達という視点で子ども達のことを話し合いました。

◆活動の様子（Web 訪問）

Web カメラのビデオ通話を使い、こどもとクリニクラウンがリアルタイムにつながります。
感染症の心配なく、病院訪問とは違うリモートでの「出会い」や「遊び」の機会を提供し、こどもの成長をサポートします。

当日に、スタッフの方と打ち合わせを行い、オンラインでの関わるお子さんの様子や人数などを確認します。
また通信状況などの確認を行います。

②実際の訪問

【写真：Web 訪問の様子】

③後カンファレンス

訪問後に、病棟スタッフと訪問の感想を共有しました。コロナ禍の今の状況。子どもたちの様子。訪問中に感じた家族や子ども達の様子や変化を伝え、子どもたちの成長や発達という視点で子ども達のことを話し合いました。

クリニクラウン Web 訪問をふりかえって

日本クリニクラウン協会　熊谷恵利子

はじめは緊張していたこどもも、クリニクラウンの世界に引き込まれ、画面から見えなくなったクリニクラウンを探そうとのぞき込んだり、Web カメラに手を伸ばしクリニクラウンをくすぐったり、画面越しだからこその遊びをクリニクラウンと一緒に作り上げていきます。病院スタッフからは「見えないところがあるからこそ想像力が刺激され遊びが広がる。」「画面越しだけどつながっているのをすごく感じた。」「思っていた以上に、こどもや家族がすごく楽しんでいた。継続したい。」という感想を頂いています。Web 事業は病院スタッフとの連携が不可欠です。スタッフと協力し、クリニクラウンがこどもの個別性にあわせて遊びや関わり方を変化させることで、本来のその子の自発性や感性を呼び起こし、こどもと家族の心に寄り添うことが、Web でもできると確信することができたことが大きな成果となりました。

クリニクラウン Web 事業は、新型コロナウイルスの影響をうけ訪問が中止になった為に立ち上げた事業ですが、実際に導入した訪問先病院からは、「コロナが落ち着いても、移植前でクリーンルームにいるこどもにも対応できる」「緊急に会わせたいこどもに対応できる」というメリットなどもあり、またこれまで遠方で入院中の子ども数が少なくクリニクラウンの訪問の実施が難しかった病院へも Web 訪問を実施することができています。また、これまでサポートできていなかった退院後の自宅療養中のこどもたちやきょうだいへの支援を実施することができるようになりました。コロナが収束し実際の訪問事業が開始したとしても、Web 事業は継続して実施していきたいです。

『皆大好きクリニクラウン』

群馬県立小児医療センター　保育士

病院の中にいると制限が多く、コロナ禍で面会時間やプレイルームで遊べる時間も限られてしまったので人との関わりも極端に少なくなり、子ども達はストレスフルな日々を送っています。そんな中、web 訪問でクリニクラウンと一緒に楽しく遊ぶことで子ども達に笑顔が戻りました。

大部屋で 1 人の患児が web カメラでクリニクラウンと遊んでいた時、クリニクラウンの声や音楽などが周りにも聞こえ一人の看護師が「楽しそうだね～」と声を掛けて来たことがありました。すると他の病室からケアが終わって出てきた看護師、リハビリ中のスタッフや他の患児、保護者も一緒になって音楽に合わせてリズムに乗ったり、歌を歌ったり音楽会が始まりました。それまでは静かだった病棟が一気に明るくなりました。普段業務に追われていて忙しい看護師も、良い気分転換になり癒されたと言っていました。子どもだけではなく、周りの大人やスタッフまでも楽しめてとても良い雰囲気に変わりました。

また、普段大人しい学童児がクリニクラウンと関わっていく中で新たな一面を発見できた場面がありました。いつもスタッフにはあまり話をしないのですが、クリニクラウンが出すクイズにうれしそうに答えていました。そして自分からもクイズを出し、クリニクラウンの真似をしながらジェスチャークイズを出したり自分の持っているぬいぐるみを見せて名前当てクイズをしたりと、とても盛り上がりました。子どもが主体的に楽しめる遊びをして頂いたことで、本来の姿を知ることが出来ました。

警戒度により実際に訪問して頂いた際には、長期入院の患児や何度も入院している患児はクリニクラウンのことを良く知っていて、「また来てくれた」と嬉しそうな顔をしていました。web 訪問で関わって頂いた患児や家族は「本物だ」と、とても喜んでいました。普段はリハビリに積極的でない患児がクリニクラウンと遊びたいからとリハビリを頑張っていたり、治療後でまだ辛い状態の患児がクリニクラウンと遊びたいから呼んできて欲しいとスタッフに伝えてきたりとクリニクラウンのことが皆大好きだと感じました。

クリニクラウンとの遊びを通して、子ども達の本来の姿や成長をたくさん見ることが出来ています。クリニクラウンは病気と闘う子どもやその家族に元気や希望を分けてくれる大切な存在です。遊びの大切さも改めて知ることが出来て、感謝の気持ちでいっぱいです。

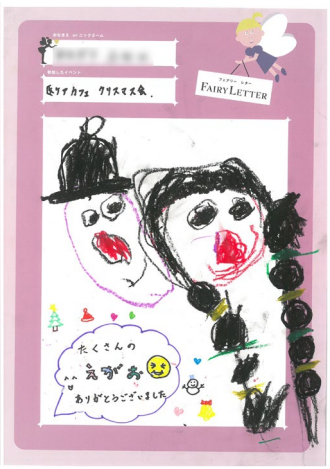
「クリニクラウン Web 訪問について」

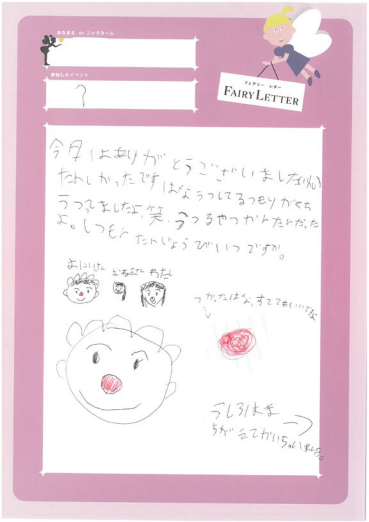
2022/04/04

兵庫県立尼崎総合医療センター小児血液・腫瘍内科　宇佐美郁哉

この二年間は、クリニクラウンさんにとって本当に大変な二年間だったと思います。その間に私も病院のバックアップを受けつつわずかではありますが、力になれたのではないかと思いますのでこの文章を書かせていただきます。2019年末からCOVID-19感染のことが報道されてはいましたが、さほど深刻には捕えていませんでした。2020年3月には、従来通りの2020年度クリニクラウン派遣計画書をいただき病院事務に提出しておりました。それがあれよあれよと言う間にCOVID-19感染が蔓延し、社会機能が麻痺し始めました。対面形式のイベントや会議が中止・延期に追い込まれました。病院の受診患者さんも激減、入院患者さんもCOVID-19感染の恐怖におびえる毎日となりました。クリニクラウンさんの訪問も中止となり、楽しみにしていたこどもたちががっかりしていたことを覚えています。クリニクラウンさんも本当に困ったと思います。でもこれでめげないのが、さすがクリニクラウンです。2020年5月8日付けの文章で『日本クリニクラウン協会は、病気や障害を抱えるこどもたちの支援として、クリニクラウンWEB事業を立ち上げました。WEBを活用し、クリニクラウンによる遊びや関わりを通して、こどものストレス緩和や疲弊している医療者や家族への励ましや安心感につながりメンタルサポートにもなると考えクリニクラウンWEB訪問を実施しています、、、』とあります。病院事務にかけあって、Webクリニクラウン訪問を全国に先駆けて行うことが、2020年6月8日に実現しました。Wi-Fiルーターとタブレット4台を貸していただき、通信チェックも入念に行って、実施の運びとなりました。ただこの様子がテレビで報道されることもわかっていたので、カメラマン兼任である私たちスタッフは、いわゆる‘いい絵’を撮らないといけないことを意識しつつ、緊張のしっぱなしでした。Web訪問中はこども達の笑顔が絶えず、さらに終了後は本当によかったとアンケートにも記載していただきクリニクラウンさんの苦労が報われた気がしました。最初の頃は、3-4部屋で同時にWeb訪問という形式で行いましたが、引っ込み思案のこどもには不向きであったこともあり、途中の訪問からは個々に一人ずつの形に変えていただきました。しっかり触れあうことができたので、実訪問に負けず劣らずこども達は楽しんでくれたと思います。こども達だけでなく、ストレスの貯まっていた付き添いの方も、普段見せない笑顔を見せてくださったことも記憶に残っています。もちろん実際の訪問を希望していたこどもには少しもの足らなかったかもしれませんが、実訪問ではクリニクラウンさんが、部屋にはいれなかったこどもと画面越しに会えるというメリットもありました。現在もよりよい形式を目指して試行錯誤してくださっています。COVID-19感染が落ち着いたら、実訪問とWeb訪問とのハイブリッド形式で実施できればいいなと個人的に思っています。COVID-19感染というとてつもない障害が襲ってきましたが、これを乗り越える力を持っているのがクリニクラウンさんの熱意だと思います。今後も協力してこども達の笑顔を一緒に見たいと思います。

●こどもたちから届いたメッセージ（一部抜粋）





●今後の課題と取り組み

これまでの活動を通してみえてきたことは、①小児病棟では、スタッフや家族は、こどもたちのために、「外部との交流の機会・コミュニケーション・体や心を動かす機会・ 感情表現・表出の機会・こども同士の交流」を求めている。②小児病棟のマンパワー不足・感染対策から、大人数で集まってのオンラインイベントの実施は現時点では難しい。③小児病棟で自由に使用できる Web 環境やオンラインの活用状況は病院ごとに異なり、病院の状況や要望が異なるため、事例をあげながら、その病院に合わせた支援体制が必要。④長期化するコロナ禍、こどもたちを支える大人が疲弊している。 病棟スタッフや家族が、こどもたちのために何かできたという達成感や一緒に楽しむことがストレス軽減につながる。⑤クリニクラウン以外の小児病棟のボランティアグループの活動の機会が減少しており、こどもたちのあそびの減少にもつながっている。⑥様々な支援団体がオンラインイベントを実施しているが当事者に情報が届いていない。⑦オンラインでのイベント実施の導入へ消極的な病院が多い。ということです。こどもたちの療養環境の向上ために、何かしたいという想いを抱えているが、マンパワー不足からできない状況があると思います。オンラインイベントへの「苦手・わからない」「負担が増える」という部分を「楽しい」「簡単」「いろいろな経験ができる」とイメージを変えることが、長期療養中のこどもたちの可能性を増やすことにつながると考えています。コロナ禍、厳しい業況が続いていますが、スタッフのみなさんと協力し、工夫をしながら、コロナ禍の小児病棟の療養環境を支えていきたいと思います。そして、たくさんのこども時間を届けていきますので、これからもどうぞよろしくお願いします。